

# 全国酪農協会ヨーロッパ視察研修報告

## 異文化の酪農に触れて日本酪農を考える

### 酪農所得がカギ!?

(9月2日～10日の9日間の旅)

## 第46回ヨーロッパ酪農視察研修



(ルーブル美術館内の逆ピラミッド前で記念撮影)



秋元 修さん

広酪は、組合員の酪農業に従事される後継者等の海外視察をもって、他国の酪農経営スタイルや異文化での酪農形態、それに係わる酪農家との交流等から酪農後継者の育成支援にあたっています。

このたび、この研修に参加された秋元修さん(和田牧場の従業員)から研修報告を受けましたのでご紹介します。

### 一 九月三～四日：オランダ

#### ■デルタ牧場

#### 家族経営農場の視察

乳牛改良団体で種雄牛生産を目的とする国際企業で、オランダ乳牛の登録・体型審査・牛群検定・遺伝能力評価・人工授精を事業とされています。

五十六haの敷地に経産牛百頭・育成牛九十頭を飼養している農場で、ソー



(搾乳ロボット等、近代酪農を視察)



(オランダ：ソーラーパネルを備えたアムステルダムフォトネンブール農場)

ラーエネルギーの利用や搾乳ロボット等、ハイテク技術を駆使した経営体で、搾乳ロボットの価格は日本のほぼ半額と聞き驚きました。オランダ人は、時間が最も貴重との考え方をもち、一日の平均労働時間は五時間と世界で最も労働時間の短い国だそうです。

## 二 九月五〜六日：スイス

### ■山岳農場の視察

約二十頭の乳牛を飼養し、夏場は放牧飼養で、冬場は夏の期間に収穫した自然牧草だけでした。このため乳量は少ないのですが、牛の寿命は十歳以上が当たり前で、牛乳の消費はチーズ作りを行っておられました。

スイスの農業は大変厳しい時期に直

面しており、高コスト・下降する価格・外国からの輸入農産物の関税撤廃に関する交渉等、農業経営の存続を脅かされる状況でした。

政府の農業構造改革によって三分の一の農家が廃業し、兼業農家は増加しているのが現状だそうです。視察先の農場も冬季にはスキー場でのリフト、レストランの手伝いの他、介護福祉の仕事を行って副収入を得ておられ、国

の支援は山岳地区によってレベル分けされていました。

## 三 九月七〜八日：フランス

### ■家族経営農場の視察(パリ郊外)

四十五頭の乳牛を飼養している他、バター・生クリーム・チーズ・ヨーグルト等乳製品に加え、りんごジュースの製品・野菜や果物を農場敷地内で販売する等、多様な農業を営んでおられました。

パリでは大規模な朝市を視察しました。フランスは食料自給率が百%以上の農業国であり、新鮮な食材が集まる朝市が盛んで、パリ市内だけで八十以上の市が行われ、庶民の日常食品を調達する台所としての役割を果たしていました。多種あるチーズや乳製品・パン・有機栽培野菜・生花・果物等の食材の他、日用雑貨の販売もされ、多くの購買者で賑わっている光景が印象に残りました。

### 視察研修を終えて

国によって人々の人柄や考え方や環境も違い、それぞれが独自のスタイルで工夫して経営されている事が分かりました。その上で、日本では日本のス



(フランス：パリの朝市)

マイルで経営していく事が一番大切だと感じました。

また、ヨーロッパでも酪農家は減少しており、その原因は酪農経営所得の減少だと聞きました。

今回の研修を通して、オランダ・スイス・フランスの酪農と文化を自分自身の目で直接見て、感じる事が出来たのはとても大きな経験となりました。

研修に参加させて頂いた経営主の和田慎吾さんや支援を頂いた酪農協会・広酪・視察に同行頂いた方々、旅行スタッフの皆様感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



(スイス：ルツェンタールの山岳酪農家)